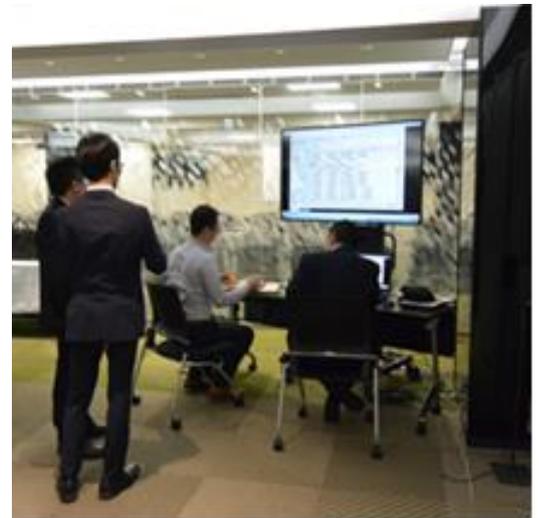


2019年 Geo-Graphia ユーザー会は、約 60 名のユーザー様にご参加いただき無事終了しました。当日は特別講演として、地圏環境テクノロジー様より「**自然システムの挙動解明に向けて – 地質場と流動系のモデリングの考え方 –**」、安藤・間様より「**地質評価の自動化・省力化を目指した取り組み AI・新技術を活用した評価手法の工事施工現場への導入**」をご紹介します。また、地層科学研究所からは Geo-Graphia の活用例として「**情報化施工の支援を目指した仮想ドレーンモデル導入の取り組み**」のほか、「**Geo-Graphia と AI**」「**開発ロードマップ**」を紹介させていただきました。その他、ユーザー様同士の情報交換、製品へのご意見ご要望の受付の場としてユーザー会後に懇親会を催しており、実際に製品を操作しながら新機能のご紹介やご質問を伺う相談コーナーなども設けています。



※Geo-Graphia ユーザー会：年に 1 回、年間サポートユーザーを対象に開催（例年 5 月開催）左：ユーザー会、右：相談コーナー

特別講演

株式会社地圏環境テクノロジー

自然システムの挙動解明に向けて – 地質場と流動系のモデリングの考え方 –

地球の表面部における気圏、水圏、地圏を循環する水について、そのメカニズムや運動を予測する手法を説明いただきました。また、GetFlows を用いた水循環解析の事例をご紹介しますとともに、地下情報の統合可視化の重要性にも言及いただきました。

株式会社 安藤・間

地質評価の自動化・省力化を目指した取り組み AI・新技術を活用した評価手法の工事施工現場への導入

トンネル掘削時に切羽の写真をもとに地質の判定を行うにあたって、学習した AI を用いる方法を説明いただきました。そのほか、マルチスペクトルカメラによる画像から地質を判別する技術など、ICT を活用した新しい施工技術をご紹介します。

主催者発表

株式会社 地層科学研究所

情報化施工の支援を目指した 仮想ドレーンモデル導入の取り組み

広域地下水流動の解析で、相対的に小さな構造となるトンネルやボーリング孔をメッシュ化することは困難です。これらをメッシュ化しないで解く手法と、Geo-Graphia とのコンビネーションでトンネルの情報化施工に適用した事例を紹介しました。

Geo-Graphia と AI

株式会社 地層科学研究所

AI の中心である機械学習の方法と応用分野について説明しました。また、Geo-Graphia の CAD 機能、サーフェス機能、地質モデル機能などについて、それぞれに関連する既往の研究成果を紹介しました。

開発ロードマップ

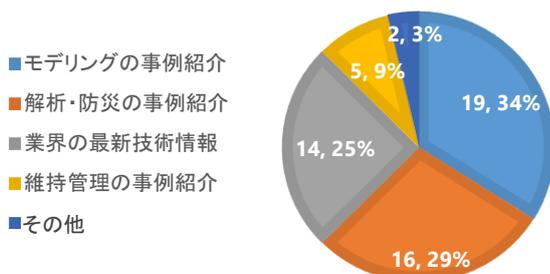
株式会社 地層科学研究所

Geo-Graphia の最新情報についてや、ユーザー様からの要望とそれに伴う今後の開発予定について紹介しました。

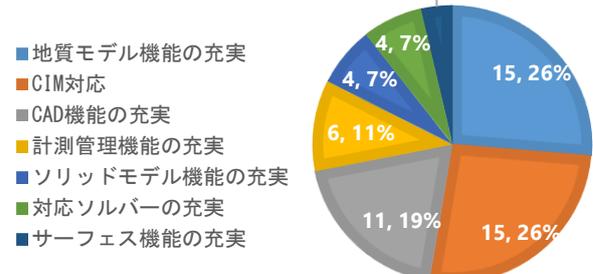
開催後記

ユーザー会ではアンケートにご協力いただきました。アンケート結果は今後の製品・サービスの向上に利用させていただきます。

ユーザー会に期待する内容・企画



今後の製品に期待すること



※アンケート結果一部抜粋